平成 26 年度第２回八戸地域畜産関連産業振興ビジョン検討会議

平成 26 年 11 月 19 日（水）13：00～
八戸市庁本館３階　議会第二委員会室

次　　第

１．開　会

２．目標値と経済効果について

３．その他

４．閉　会

次第２資料（報告）

平成 26 年 11 月 19 日（水）　第２回会議資料
八戸地域畜産関連産業振興ビジョン検討会議

第１回八戸地域畜産関連産業振興ビジョン検討会議議事要旨

◎ 日　　時　平成 26 年 8 月 27 日（金）　13:30～15:30
◎ 場　　所　議会　第二委員会室
◎ 出席委員　丹羽会長、青野副会長、東委員、分枝委員、佐々木委員、上村委員、今野委員、小田桐委員、小原委員、小島委員、小村委員、菊地委員、川守田委員、沼沢委員、松林委員、野沢委員
◎ 八 戸 市　小林市長、山本農林水産部長、上村農林水産部次長兼農政課長、石村農畜産ＧＬ、熊野主査

１ 組織会、ビジョンの概要・構成・スケジュール案

・委員推薦により、丹羽委員を会長に、青野委員を副会長に選出。
・ビジョンの概要・構成・スケジュール案について事務局案のとおり承認。

２ その他

委員から次のような意見等があった。

○県のプランと内容が異なるようなことがあってもいいのか。
・県のプランを踏まえた上で、さらに八戸地域の独自の部分も考えていきたい。

○畜産業をＰＲするためにも畜産関連の経済波及効果を出して欲しい。
・数値化できるところは数値化したい。

○飼料用米の作付面積の変化はどういった理由からか。
・農協の意向が強い。
・今年度は若干上向き。

○畜産食料品製造業とはどのような業種か。
・肉製品製造業、乳製品製造業、その他畜産食品製造業である。

○最終的には数値的な目標も入れるのか。
・取組み項目にマッチした目標や効果を数字なり文章なりで掲げたいと思っている。

○一番先に何を目標にするのか掲げてもらいたい。
・数値目標はあった方がいいと思う。
・飼料生産から考えると、15%伸ばすのは可能であると思われる。
・飼料用米の成功モデルにしたい。

○6 次産業化はどのように考えているのか。
・農家がやるのは難しいと思うので、農商工連携といった方が実態に向いていると考えている。

○流通と一緒に何かやれれば面白いと思う。

○飼料用米促進のためには、農家のリスク軽減を考えなければならない。

○八戸市以外の行政の方は、ビジョン策定に当たりどのように考えているのか。
・昔から住む住民と、そうでない住民との考え方の違いや、酪農や肉用牛をやってきた人たちの捉え方の違いもあるので、いかに調整を取りながら進める必要があると感じている。

以 上

次第 2 資料

平成 26 年 11 月 19 日（水）　第 2 回会議資料
八戸地域畜産関連産業振興ビジョン検討会議

各種施策策定の基となる基本目標の設定（案）について

●基本目標の内容について

・第 3 章に掲げる施策の基となるため、八戸地域における飼養頭羽数の平成 36 年度目標値を設定する。

＜平成 36 年度における各畜種の飼養頭羽数の目標（案）

	平成 24 年度飼養頭羽数	**平成 36 年度目標頭羽数**	増頭羽数	増加率（%）
採卵鶏	３，８５５	**５，３０７**	１，４５２	138
肉用鶏	３，８７６	**４，２８９**	４１３	111
豚	１１９．６	**１４３．７**	２４．１	120

（単位：千羽、千頭）

●基本目標設定の考え方

・過去３年の八戸地域における飼養頭羽数の傾向より、回帰式により平成 36 年度の頭羽数を予測。
（過去３年；頭羽数のばらつきが相対的に少ない部分）
回帰の方法については、各畜種の頭羽数の傾向から、最も精度の高い（決定係数が高い）方法を採用。

・現在事業者において進められている個別の農場計画は考慮せず。

・八戸飼料穀物コンビナートにおける生産余力（年間約 30 万 t）を勘案した。

＜参考　青森県養豚・養鶏振興プランに掲げる飼養頭羽数目標＞　（計画期間；平成 22 年度～33 年度、計画区域；県内）

	平成 22 年度 飼養頭羽数	平成 33 年度 目標頭羽数	増頭羽数			増加率（%）
				傾向による推測分	増加要因分	
採卵鶏	4,780	6,100	1,320	320	1,000	128
肉用鶏	6,100	9,100	3,000	1,320	1,680	149
豚	391.2	542.0	150.8	20.8	130.0	139

（単位：千羽、千頭）

●目標値による経済効果の試算

・飼養頭羽数目標値による経済効果について、平成 17 年青森県産業連関表により試算。

＜試算方法＞

１　平成 24 年生産農業所得統計における各畜種の産出額を、八戸地域内の飼養頭羽数の県内全体における割合で按分し、八戸地域での産出額予測値を試算。

２　１で得られた数値に、飼養頭羽数の伸び率を乗じて、産出額の伸びを算定。

３　２で得られた数値を、産業連関表に入力し、経済効果を試算。

●試算結果（計算は参考資料）

	24 年度産出額試算（億円）	経済効果（雇用者換算数）	36 年度頭羽数目標値の産出額伸び率	36 年度産出額試算（億円）	経済効果の増（雇用者換算数増）
採卵鶏	89.9	398.66 億円（1,869 人）	137.7%	123.8	＋89.9 億円（＋419 人）
肉用鶏	100.4		110.7%	111.1	
豚	69.0		120.2%	82.9	
合計	259.3			317.8 (+58.5 億円)	

○家畜飼養戸数・頭羽数について

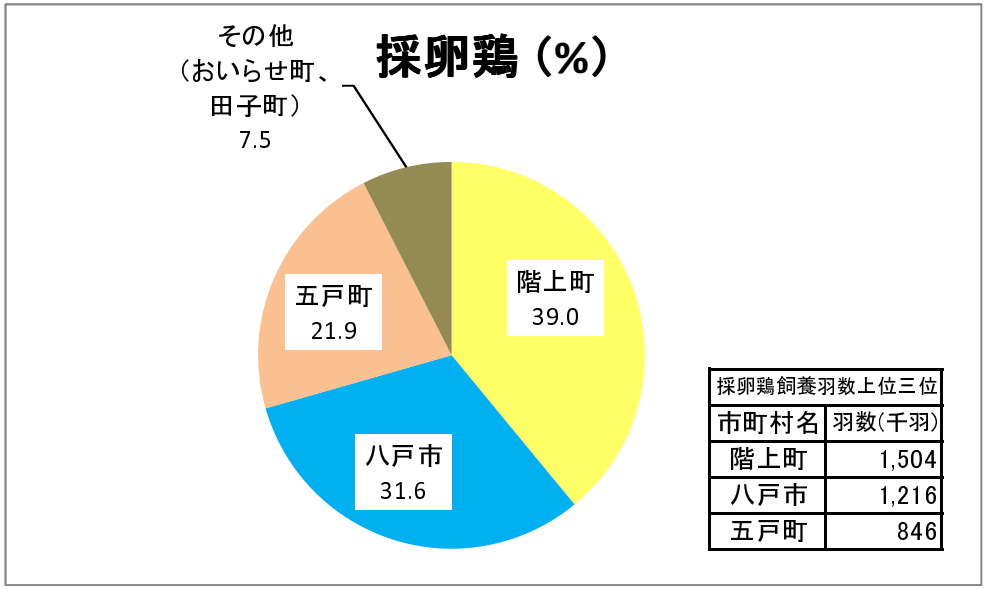
（単位：戸、千頭、千羽）

種目	年度	採卵鶏（育雛鶏含む）		肉用鶏（シャモロック含む）		豚	
		農場数	羽数	農場数	羽数	農場数	頭数
八戸地域合計	H15	23	3,172	45	4,017	52	127.5
	H16	21	3,553	45	4,035	48	128.0
	H17	22	3,677	43	3,668	44	119.5
	H18	23	3,614	44	3,888	46	119.2
	H19	18	3,324	46	4,153	43	121.9
	H20	17	3,445	49	4,002	39	119.6
	H21	17	3,602	59	4,093	34	129.5
	H22	18	3,614	61	3,811	31	114.6
	H23	18	3,912	61	3,841	28	119.2
	H24	18	3,855	59	3,876	33	119.6

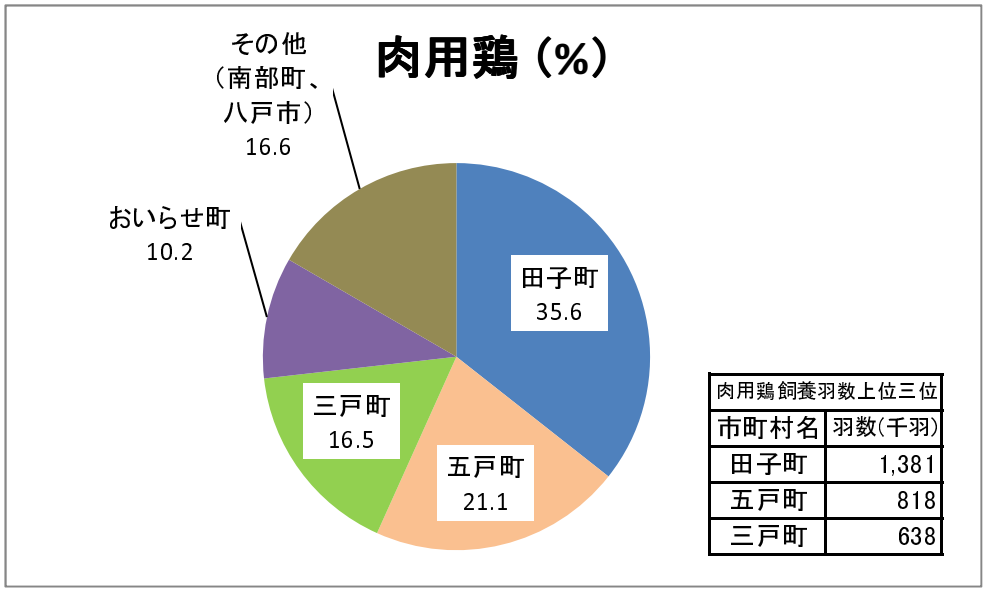
（三八地域県民局及び市町村担当課調べ）

○八戸地域内市町村の飼養状況（平成24年度）

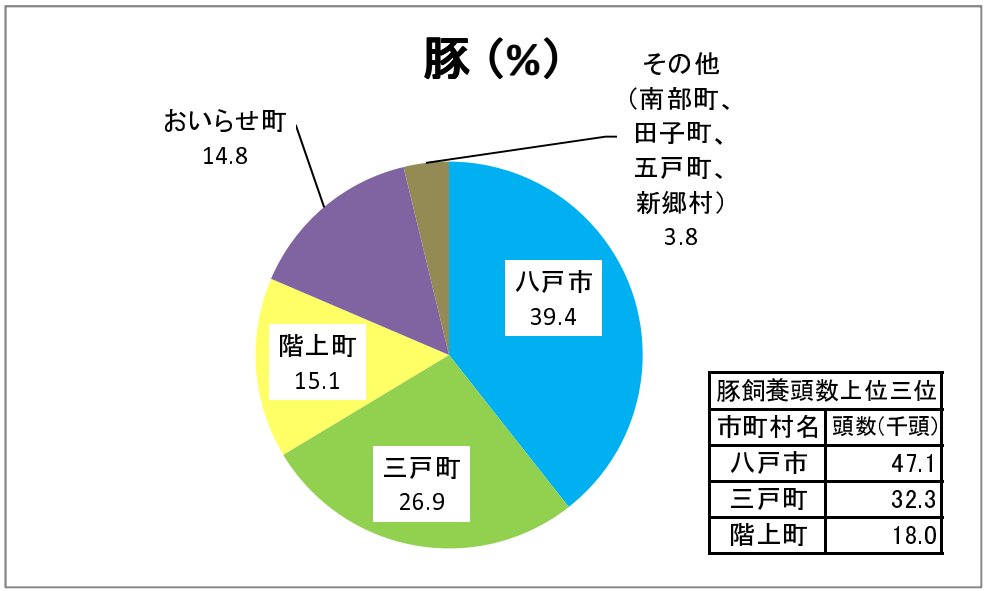
※頭羽数の八戸地域合計に対する割合（八戸地域内の頭羽数合計　採卵鶏：3,855千羽、肉養鶏：3,876千羽、豚：119.6千頭）



採卵鶏飼養羽数上位三位	
市町村名	羽数(千羽)
階上町	1,504
八戸市	1,216
五戸町	846



肉用鶏飼養羽数上位三位	
市町村名	羽数(千羽)
田子町	1,381
五戸町	818
三戸町	638



豚飼養頭数上位三位	
市町村名	頭数(千頭)
八戸市	47.1
三戸町	32.3
階上町	18.0

（三八地域県民局及び市町村担当課調べ）

○施策策定に向けた目標設定

取組み項目	取組み内容	現況	目標
1．生産体制の整備・強化	・畜産の国内一大基地化を目指すため、飼養頭羽数の増加を図る。（再掲）		
	採卵鶏	3,855千羽	5,307千羽
	肉養鶏	3,876千羽	4,289千羽
	養豚	119.6千頭	143.7千頭
	・生産農場や食肉加工工場の新規参入を促進するため、後押しが出来るよう、情報の共有を図る。		
	・飼養頭羽数の増加に対応するため、飼料の増産を図る。		
	飼料生産量	200万t	230万t
2．地場産畜産物の消費拡大	・地産地消の推進のため、学校給食への利用促進やイベント等を実施する。		
	・畜産物の消費拡大のため、ブランド化を推進し、認知度向上、付加価値の向上を図る。		
	・6次産業化推進のため、認定に向けた取り組みを支援する。		
	取組み事案	0件	3件
3．飼料自給率の向上	・飼料用米の利用拡大のため、作付面積の拡充を目指す。		
	作付面積	49ha	300ha
4．家畜防疫体制の向上	・危機管理体制の強化のため、各市町村間において協定等の締結を行うなど、協力体制を構築する。		
5．家畜排せつ物の有効利用促進	・耕畜連携の強化と堆肥の利活用のため、飼料用米耕種農家と畜産農家による資源循環の推進を目指す。		
	・家畜排せつ物のバイオマスエネルギー利用を推進するため、動向に注視し、実施に向けた取組みを支援する。		